

「芯の通った学校組織」推進プラン 第2ステージ～大分県版「チーム学校」実現プラン～

1. 「芯の通った学校組織」の構築

- (1) 第5フェーズまで(第1ステージ)の総括
 - ・学校マネジメントの取組が着実に進展
 - ・組織的な学力・体力向上、不登校対策等に成果
 - ・取組の継続・徹底と「質」の向上が必要
- (2) 定着状況と学力調査結果とのクロス分析
 - ・組織力の高い学校は学力も高い傾向
- (3) 「芯の通った学校組織」の取組継続の必要性
 - ・学校の組織的課題解決力の向上は喫緊の課題
⇒学校運営の基本として取組の継続・発展を期し、「当たり前」の学校文化にしていく必要

2. 教育改革の方向性

- (1) 「教育県大分」創造プラン2016(県)
 - ・最重要目標:「全国に誇れる教育水準」の達成
 - ・「芯の通った学校組織」の取組深化
- (2) 学習指導要領の改訂・実施と高大接続改革(国)
 - ・「社会に開かれた教育課程」の実現、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(ALの視点)
 - ・高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革
- (3) 「次世代の学校・地域」創生プラン(国)
 - ・教員の資質・能力の向上を目指す制度改革、学校の組織運営改革、地域と学校の連携・協働に向けた改革

プランの方向性

3. 「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上

期間:平成29年度～31年度

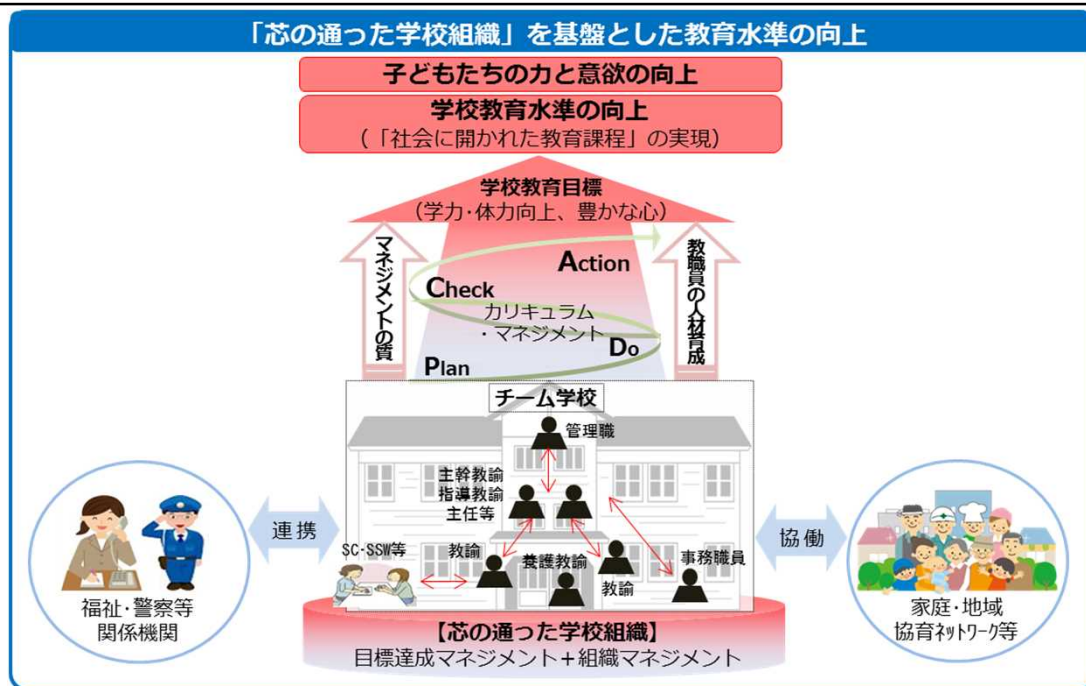
◇「芯の通った学校組織」を基盤として「チーム学校」の視点を導入

学校マネジメントの質の向上+教職員の人材育成 ⇒ 組織的課題解決力の向上、**学校教育水準の向上**

◇学校教育水準の向上×縦(学校段階間)と横(家庭・地域、福祉・警察等関係機関)の連携・協働

⇒ 持続的・発展的な教育活動の実現、**本県教育水準の向上**

⇒ 「教育県大分」創造に向け、プラン2016中間年(平成31年度)の目標値達成へ



4. 学校に求められる取組のポイント

○学校マネジメント

- ・妥当な取組指標の設定、効果的な検証・改善サイクルの確立、学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動
- ・「チーム学校」の推進 ・マネジメントツールの一層の活用 ・校種間連携の推進 ・学校・家庭・地域の協働

○授業改善

- ・「付けたい力を意識した密度の濃い授業」の実現(⇒主体的・対話的で深い学びの実現)
- ・授業改善のPDCAサイクルの実働(学力向上プラン、授業改善スクールプラン・マイプランの活用)
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた環境整備 ・カリキュラム・マネジメントの確立
- ・特別支援教育の視点の導入(含:「個別の指導計画」の作成) ・校種を越えた互見授業や授業研究会等の充実

○体力向上・健康増進

- ・「分かる」「できる」「楽しい」授業の実践(⇒運動に親しむ資質や能力の育成)
- ・「一校一実践」など学校教育活動全体を通じた組織的・計画的な取組(体力向上プランの活用)
- ・食や睡眠等の生活習慣の改善 ・むし歯予防対策(歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用)

○いじめ・不登校対策等

- ・未然防止・初期対応・学校復帰支援に係る検証・改善サイクルの徹底(不登校対策プランの活用)
- ・組織的取組の推進(校内委員会等の定期開催、SC・SSW等の活用、関係機関との連携)

○人材育成(○J Tによる資質能力の向上)

5. 教育水準向上に向けた取組

(1) 学校マネジメントの深化

① 「学校マネジメント4つの観点」に基づく指導・支援

⇒ 「8つの観点」の観点2、4、5に焦点化、「チーム学校」に係る観点を追加

観点Ⅰ：学校の喫緊の課題を踏まえた重点目標を達成するため、取り組むことにより重点目標の達成に近づく具体的な頻度等を書き込んだ取組指標を設定すること【取組指標等の設定】

観点Ⅱ：客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認を行った上で、指標の妥当性を検証しつつ、重点目標達成に近づく改善方策を年度の中で繰り返し検討すること【検証・改善サイクルの確立】

観点Ⅲ：学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動の必要性について、各種会議や面談を通して周知徹底を図るとともに、主要主任等が適時適切に指導・助言を行うこと【目標の連動】

観点Ⅳ：教職員や専門スタッフ等の専門性を発揮・活用できる体制を構築し、学校の個別課題に組織的・効果的に取り組むこと【チーム学校】

② 目標達成マネジメントツールの整理・統合

- ・「学校評価の4点セット」と「目標協働達成の4点セット」を統合（最上位のマネジメントツール）
- ・学力向上、体力向上、不登校対策の各プランによる検証・改善サイクルの充実（整理・統合を含む様式の工夫を促進）
- ・学力向上プランの参考様式に「授業改善の5点セット」を位置付け

③ 各種マネジメントツールを活用した校種間連携の推進

④ 学校・家庭・地域の協働：CSの普及促進、「協育」ネットワークを基盤とした地域学校協働活動の推進

(2) 授業改善の徹底

※「付けたい力を意識した密度の濃い授業」（⇒主体的・対話的で深い学び）の実現に向けた初等中等教育を貫く授業改善の推進

① 小・中学校で進める授業改善～「新大分スタンダード」で実現する主体的・対話的で深い学び～

- ・「新大分スタンダード」による授業の質の向上（「めあて・課題・まとめ・振り返り」設定例、単元プラン例等の提示）
- ・「中学校学力向上対策3つの提言」の推進（推進重点校、深い学び教科等別協議会、数学指導力強化巡回指導）

② 高等学校における授業改善

- ・「スクールプラン」「マイプラン」による授業改善の推進
- ・授業改善推進PTの活性化、授業改善推進会議等の充実

③ 特別支援教育の視点からの授業改善

- ・きめ細かい指導の充実（UD、合理的配慮の提供等）
- ・「個別の指導計画」の作成促進（専門家の派遣、研修の実施等）
- ・特別支援学校における授業改善の推進

④ 授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進

(3) 体力向上の推進と健康課題への対応

【体力向上の推進】

- ・体育専科教員や中学校体育推進教員の取組の普及
- ・体力向上プランの活用（検証・改善サイクルの確立、「一校一実践」の改善）

【健康課題への対応】

- ・望ましい生活習慣・運動習慣の定着
- ・フッ化物洗口実施校の拡充（小・中）
- ・女子生徒の運動習慣づくりの推進（高）

(4) いじめ・不登校対策等の推進

- ・組織的取組の推進（校内委員会等の開催促進、SC・SSW等専門スタッフの活用、教育支援センター等との連携促進）
- ・不登校対策プランの活用（検証・改善サイクルの確立）
- ・地域不登校防止推進教員の活用促進
- ・子どもの貧困対策に係る体制整備（SSWの配置促進、福祉等関係機関との連携強化）

6. 学校を支える取組

(1) 「教育県大分」を担う人材育成

① 大量退職・大量採用時代における教職員の資質向上

- ・ベテラン教員のノウハウ伝承（指導教諭の配置等）
- ・組織的・意図的なOJTの支援（「OJTの手引き」の活用等）

② 広域人事・校種間人事の推進

③ 学校マネジメント研修の充実

- ・組織的な授業改善や生徒指導を推進する研修の実施
- ・主要主任等の研修機会の充実、若手教職員の研修充実

④ 主幹教諭・指導教諭の役割の明確化

- 主幹教諭：校長・教頭等の補佐、原則教務を担当
- 指導教諭：校内の組織的な授業改善を実践する要の職

(2) 教育指導体制の強化

① 教育事務所等による指導・支援

- ・年間2回＋αの学校訪問（定期訪問）
（学校マネジメントの質向上と授業力向上を中心に指導・支援、客観的データ・目標達成マネジメントツールを用いて協議、主幹教諭・教務主任・学校支援センター所長等の同席クロス訪問の継続、本庁による学校訪問等との組み合わせ）
- ・教科指導力向上に向けた指導・支援
（算数・数学と外国語に重点、教育事務所の不定期訪問と本庁・教育センター指導主事による訪問指導の連携・分担）

② 県教育委員会と市町村教育委員会の連携強化

- ・市町村教育長会議等の活性化（年間3回：4月・10月・1月、管内教育長会議・指導主事連絡会等の体系化・活性化）
- ・「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会等の開催

③ 学校支援センターによる学校運営支援機能の強化

- ・学校支援センター連絡協議会の活用
- ・学校事務職員の配置基準見直し等の検討

④ 県立学校への指導・支援

- ・学校評価に係る教育長・次長等面談の実施
- ・特別支援学校の学部主事の位置付けの明確化

(3) その他

① 教育研究団体等の活用

- ・「大分県学校教育研究団体連絡協議会」の設置

② 県内大学等との連携強化

- ・教員養成関係7大学との連携協力、教員育成協議会
- ・大分大学教育学部附属学校・園との連携

③ 調査研究機能の強化

- ・県教育センターの調査研究機能の強化
- ・大学等との共同・委託研究の検討

④ 学校現場の負担軽減

- ・研修・会議等の精選・縮減（取組継続）
- ・学校現場における業務の適正化